

非鉄金属王国の 興隆の書

人間たちにも、ゴールド女王の素晴らしさがだんだんと理解されるようになり、“錬金術”なるものが発展してきた。しかしそれらの多くは魔術的な内容で占められており、「元素を別の元素に変換できる」といったような変な話が多かった。

ただ、一部にはその水準から抜け出し、現在でいう「科学的」な内容で技術を整理したような優れたものも登場し始めた。



人間界にも賢い者がいるよ。
われわれの仲間を探し出し、集めて、
きれいに分離する方法を整理して
本にまとめてくれたらしいぞ。

と学者の鉛が銀に言った。

すごいじゃないか！
一体誰がそんなことを？



銀の質問に、鉛は

「ゲオルグ・パウエル（ラテン語名：アグリコラ）と
いう者らしい。」

隣で話を聞いていた錫が、



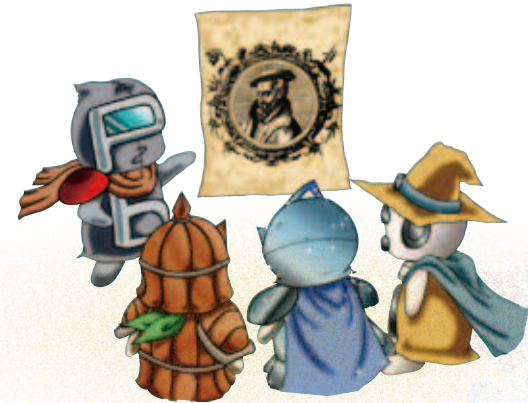
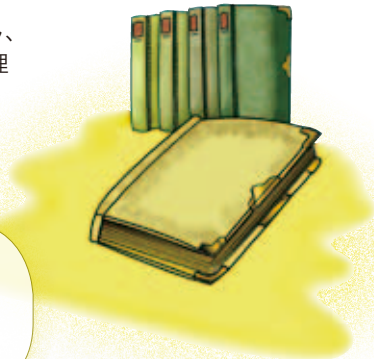
どんな人間なんだ？

と鉛に聞いた。

鉛は

どうやら元々は医師らしい。似顔絵があるよ。
どうも俺よりかっこよく見えるな

と言いながら銀や錫に絵を見せた。



このアグリコラが、16世紀に印刷本として出版したのが「デ・レ・メタリカ」という本である。この本は、古くからあった言い伝えや迷信的な錬金術とは一線を画し、ルネッサンス期に普及した実証的な考え方に基づく技術を網羅したもので、これまで魔法のような話に終始しがちだった金属の話を実証的に説明する画期的なものだった。金属を分離して取り出すための技術を、現在の地質学、採鉱学、選鉱学、製錬学に分けて整理してまとめている。美しいイラストもいっぱい入った本で、それが印刷技術によって各地に広まっていった。

この本が出版されたおかげで、金属元素を精度よく分離することが可能となり、多くの「職人芸を持った人間」（現在でいう「技術者」）が登場し、それ以後、非鉄金属界の仲間の種類と量が増え始めていったのである。

幼いセイレンジャーの登場

非鉄金属界には、古くからある不思議な言い伝えがあった。「やがてセイレンジャーなるものが出現し、不滅の命と輝きが得られる」というものである……。

錫は、アグリコラの『デ・レ・メタリカ』のページをめくりながら、なんとそこにそのセイレンジャーの姿があることに気が付いた。

「まだ幼い姿ですが、この本の中にあの伝説のセイレンジャーの活躍が描かれている！ これを見てくれたまえ。」



そこに描かれていたのは、ゴールド女王を重さ（正確に言うと密度）で分けて純度を高めているセイレンジャーの姿だった。



これは、火を使って我々の仲間を溶かしているようだ。
まだまだ初歩的な技術だけど、やっと火と熱を
コントロールできるようになったのだな。

と言う鉛の言葉に、

銅将軍は、

火と熱をつかさどる者だけではない。
彼を含め4人の幼いセイレンジャーたちが、
それぞれの特徴とともに書かれているよ。



金属の仲間を探し出す



掘り出す



大雑把でもいいので
簡単にわかる

体についている余計なものを
火で溶かしてすっきりさせる



銅将軍の話に

ほんとうに人間界に
セイレンジャーが現れたのか？



と水銀は疑問の声をあげたが、

どうも本当のようだ。しかもこの本が印刷によって人間界に広まった
ことで、これまででは一部の特殊な人間のみしかできなかったことが、
その本を読んで勉強した多くの人間ができるようになってきているらしい。

と錫。



鉛も本を見ながら、

この本の中では、魔法使いの水銀を使用しないでゴールド
女王を集めて大きな形にする方法も書かれているようだ

と言った。



ただ、それを行うには、仲間である学者の鉛
が犠牲とならないといけないようだね(1)

という錫に鉛は



それでもいい。それで女王様が強くなられるなら本望だ。
『われわれは、形が変わっても、ある意味不滅である』と前から言っていたではないか。
一度犠牲になったとしても、将来また元の形に戻ることが可能になるよ！

と答えた。

まさに我々にとっては、神の啓示の書だな



と銅将軍。

だが錫は、



仲間が増えることは喜ばしいが、
人間がそれをまた戦争に使うようだとか心配だな

と不安をもらった。



鉛も

確かにそうなんだ。鉄砲や大砲の玉として使用されると
広く散らばってしまい、だれも集めて元に戻してくれないからね

とつぶやいた。

KEYWORD



鉛博士の「これってなに？」

1 「水銀を使用しないでゴールド女王を集めて大きな形にする、
ただし鉛が犠牲になる」とは？

溶融した鉛の中に金を溶かし吸収させたものを、骨灰
(燐酸カルシウム) で出来たるつぼ中で加熱すると鉛が
酸化して酸化鉛となる。酸化鉛はるつぼに吸収され、
金だけがかかるつぼの中に残る。こうして金を回収する方法
は『灰吹法』と呼ばれている。